

高校生平和大使 高校生1万人署名活動

2021年
2月



〒850-0057
長崎市大黒町4-16 長崎自治労会館2階
平和活動支援センター気付
TEL&FAX : 095-822-5253
E-mail : peace21@grace.ocn.ne.jp

会報

『広島結団式／研修』開催される！

～コロナ禍のなか、ようやく一同にそろろう～

高校生平和大使は例年、核兵器廃絶と平和な世界の実現を求めて、国連に派遣されていますが、突然のコロナ禍に見舞われてしまいました。例年6月にはおこなわれる広島での結団式／研修や長崎での研修が出来ない状況になりました。この度、12月5日、6日によりやくにして広島での結団式／研修をおこなうことが出来ました。28人の第23代高校生平和大使の内26人が参加しました。結団式では小早川健共同代表が、「地道な活動が世の中を変える。少しずつ前進して欲しい。」と挨拶しました。その後、高校生平和大使の経験者である下久保理子さんの司会で、被爆者の原田浩さん（81才；元広島原爆資料館館長）の被爆講話、高校生平和大使OGの井上つぐみさん、中村涼香



さん、山西咲和さん、の話しを聞きました。さらに、第2部として、派遣委員会共同代表の、在間秀和弁護士、平野伸人さんの話しなどを聞きました。さらに、各都道府県紹介などもおこなうことが出来ました。夕食交流会などが出来ない状況ではありましたが、一同に会することができて、本当に良かったと思います。



2日目は、班に分かれて平和記念公園の碑巡りをおこなったほか、同資料館を見学しました。館内では、広島の高中生平和大使が説明役になり展示物を解説してくれました。

核廃絶の願い 資料館見学通じ共有

第23代高校生平和大使

展示物の絵を解説する楠さん（右）＝広島市、広島平和記念資料館

被爆 75年 戦後

国内外に核兵器廃絶を訴え、活動する第23代高校生平和大使たちが6日、広島市の広島平和記念資料館を見学し、広島原爆の実相を学んだ。

今期の平和大使28人のうち、前日の結団式に臨んだ本県など16都道府県の26人が参加。班に分かれて平和記念公園の碑を巡ったほか、同資料館を見学した。

館内では広島県選出の平和大使3人が、これまで学んだ広島原爆の実相や被爆者の体験を基に展示物を解説。広島県の平和大使で、修進高2年の楠康生さん（16）は、体からシジがわいて苦しむ被爆者の様子を描いた絵の展示に「取っても取っても、わいてきた。当時、何が本当に正しい治療法か分からなかった」と紹介した。

本県から参加し、楠さんの案内を聞いた鎮西学院高2年、大徳新之介さん（17）は「同世代の言葉で感情移入しやすかった。被爆者の体験を、高校生同士で伝える大切さを感じた」と話した。

（湊井 環）

2020年12月7日 長崎新聞

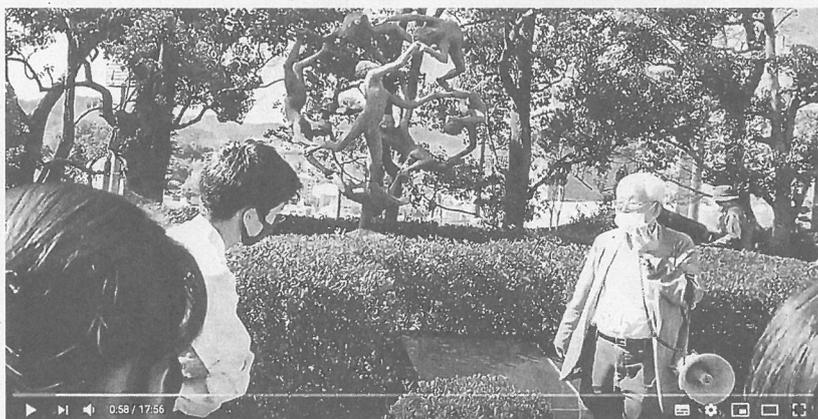
オンライン修学旅行、おこなわれる！

～高校生1万人署名活動／東京支部の取り組み～

コロナウイルスの蔓延により、署名活動も休止せざるを得ない状況の中、高校生1万人署名活動・東京支部では、相次ぐ、修学旅行の取り止めが続いています。そんななか、高校生1万人署名活動東京支部では、オンライン修学旅行を計画しました。実際は現地に行く事が出来ない中、オンライン上で、修学旅行の経験をしようというものです。

バーチャルで長崎訪問

コロナ禍、オンライン修学旅行



「修学旅行生の目線で平和公園を訪ねる
「オンライン修学旅行」の一場面

新型コロナウイルスの感染拡大で県外から長崎を訪れる修学旅行が難しくなる中、被爆者の講話や被爆地訪問をインターネットで疑似体験する「オンライン修学旅行」が11月13～15日に行われた。企画したのは核兵器廃絶を目指す高校生1万人署名実行委員会。関東の高校生約30人が参加した。

1万人署名高校生ら企画、関東の30人参加

「二度と被爆者をつくら
ない。そのためには核兵器
廃絶しかない」。オンライ
ン修学旅行の1日目。長崎
市の爆心地から4・3キロで
被爆した元教師の山川剛さ
ん(89)がビデオ会議アプリ
「Zoom(ズーム)」を
通じて高校生に呼び掛け
た。

「核兵器禁止条約をどう
思いますか」「戦争を起こ
さないためには」。高校生
から質問が寄せられる様子
は修学旅行での被爆体験講
話ながらだ。

長崎には平和教育を目的
に年間25万～30万人の修学
旅行生が訪れているが、今
年は新型コロナウイルスの影響で激
減。「それでも長崎で学び
たい」という関東の高校生
の声が同実行委員会東京支
部に寄せられ、長崎の高校
生と一緒に「オンライン修
学旅行」を企画した。参加

は東京支部を通じて呼び掛
けられ、核兵器問題など
関心がある高校生がそれぞ
れのパソコンで視聴した。

2日目は、修学旅行生の
目線で平和公園(長崎市松
山町)や山王神社(同市坂
本町)を訪ねる「バーチャ
ルツアー」の動画を配信。
最終日には長崎大核兵器廃
絶研究センター(RECN
A)の広瀬訓副センター
長の特別講話があり、参加
者は核兵器を巡る最新情勢
について学んだ。

「現実の修学旅行ではな
かなかできない。コロナ禍
だからこそ生まれた発想だ
った」と、同委員会世話
人の平野伸人さん(73)。

それでも被爆地を訪れる
大切さは変わらない。画面
越しでなく実際に目で見
ること、原爆の悲惨さを体感
できる、と企画に携わった
大隈ゆうかさん(17)はN高
2年11は思う。「コロナ収
束後は現実とオンライン、
それぞれの強みを生かして
被爆地を発信したい」
オンライン修学旅行は動
画投稿サイト「ユーチュー
ブ」で視聴できる。

(西田昌矢)

今回は、11月13日、最初に、被爆者「山川剛さんの被爆講話」を聞きました。

2日目の11月14日は、長崎の高校生が撮影してくれた映像とともに、長崎県内の観光スポット、平和学習スポットを巡りました。

3日目の11月15日は、RECNA（核兵器廃絶センター）副センター長で、長崎大学教授の広瀬訓教授に核兵器をめぐる国際情勢、法体系などについて解説していただきました。

最終日4日目の11月22日はプログラムを振り返ってのディスカッションをおこない、プログラムの最後には修了式を実施しました。

修学旅行らしく、合間にはお楽しみコンテンツなどの企画も入れられグルメ紹介、行事、特産品、方言の紹介などもあり、長崎の文化や雰囲気をもっといっそう味わうことが出来ました。

異例づくめの今年度ですが、高校生は、各地でオンラインでの署名活動や意見交換会に活路を見出してきました。その1つがこのオンライン修学旅行です。今後、広がれば良いですね。



オンラインで長崎修学旅行 きょうから

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で修学旅行に行けない中高生のために、核兵器廃絶を目指す「高校生1万人署名活動実行委員会」が13日からオンライン「長崎修学旅行」を実施する。被爆者の講話や長崎市内のバーチャルツアーを予定。企画した高校生らは「コロナで学びの機会を奪われたみなさん、核兵器や原爆の問題を覚えてもらうきっかけにしてほしい」と語る。

高校生1万人署名東京支部

13、15日は、長崎市で被爆した山川剛さんの体験を聞くほか、映像で長崎原爆資料館や平和公園を巡る。世界の核情勢についての講話も。22日はプログラムを振り返るディスカッションをし、修了式も開く。

感染禍でも
核問題学ぼう



2020年11月13日 長崎新聞

中満泉・国連軍縮事務次長と 高校生平和大使の意見交換会

今年度、高校生平和大使に加わった兵庫県から選出された、外園駿さんの発案で、国連軍縮担当上級代表の中満泉さんと高校生平和大使との意見交換会が実現しました。平日にも関わらず、全国から26名の第23代高校生平和大使が参加して、様々なテーマについて話し合われました。コロナ禍で、ジュネーブ訪問が出来ない状況が続きましたが、核兵器禁止条約が来年1月22日に発効するというタイミングでの企画でした。条約の発効後に開かれる締約国会議に向けて、重要な2021年です。国連派遣が実現しなくても、高校生平和大使の果たす役割の重要性に変わりがないことを実感した意見交換会でした。

高校生 平和の願い発信

兵庫県からは今年初めて高校生平和大使が選ばれ、灘高3年の外園駿さん(18) 西宮市とカネディアン・アカデミー2年の林昶諒さん(16) 神戸市東灘区が参加した。外園さんは、新型コロナウイルス感染症の影響で国連軍縮会議への派遣が見送られるなど活動が制限される中、意見交換会を発案。灘高で講演したことがある外務省職員や国連の担当者に掛け合せて、実現させた。

中満事務次長は、大國間で冷戦時代のような緊張が高まっている一方、来年の1月には核兵器禁止条約が発効することなど、現在の核軍縮を巡る動きを説明。東京電力福島第1原発事故が、世界にもたらした影響などについても意見を交わした。

中満事務次長は「本当の意味で核廃絶をするにはどうすれば良いか。ハードコア(核心的)な安全保障を学び、深く議論してほしい」と強調。気候変動を巡る世

国連事務次長とオンラインで意見交換

平和の願いを世界に発信する「高校生平和大使」と国連軍縮担当上級代表の中満泉事務次長の意見交換会が16日、オンラインで開かれた。全国から

「大使」兵庫から2人 核軍縮や安全保障議論

界の動きにも触れ、「若者の果たす役割が大きくなっている。関心を持ち続けて」と期待を寄せた。

核抑止論や核廃絶について質問した林さんは「貴重な角度からの話を聞けてよかった」。司会を務めた外園さんは「中満さんの言葉には重みがあり、濃厚な時間を過ごせた」と満足そうに話した。



オンラインで開催された中満泉・国連事務次長との意見交換会

26人が出席し、核軍縮や原発事故、平和大使の活動などさまざまなテーマについて語り合った。(高田康夫)

令和2年(2020年)12月17日 木曜日 熊本 本 日 報

核兵器廃絶と平和な世界の実現をめざす 交生1万人署名活動



国連の中満事務次長に質問する大津高の水上真菜さん＝大津町

平和大使・水上さん(大津高) 国連事務次長と対談



ぶれすけ
おすすめ

核兵器廃絶を訴える和団体でつくる実行委員
全国の高校生平和大使
が16日、国連事務次長
上級代表の中満事務
務次長とオンラインで
対談し、核軍縮への理
解を求めた。全国の平
平和大使は、全国の平
テレビ会議システムで全
国から26人が参加し、中
満氏が核軍縮を巡る世
界の現状を説明した。
県内唯一の大使で大津
高2年の水上真菜さん
菊池市は「友人など参
加し、「核軍縮」に関心
がある人となない人の差を
埋めるためには、質問
中満氏は「友人など話
す機会をつくることが大
事。核問題にかかわらず、
世界の課題に興味を持
つことにつながる」とア
ドバイスを送った。
終了後、水上さんは
「平和な世界の実現のた
めに身近なことから始め
たい。安全保障などに
ついての勉強も必要だ
と感した」と話した。
(丁将広)

核軍縮 関心差埋めたい

2020年
(令和2年)
12月17日
木曜日



発行所
熊本日日新聞社
〒860-8506
熊本中央区世安町172
社代表(096)361-3111
© 熊本日日新聞社 2020年

ぶれすけ
おすすめ
核兵器廃絶へ
身近なことから
高校生平和大使で
大津高の水上真菜さ
さんが、国連事務次
長上級代表の中満事
務次長とオンライン
で対談
したよ。
県北 15

高校生平和大使 今永さん(静岡2) × 国連事務次長



核兵器の廃絶に向けて中満国連事務次長と意見交換する今永さん＝静岡市葵区の静岡高

安全保障問題深刻化 若者の行動促す

意見交換会後、今永さんは取材に「私たちの力は微力だが無力ではない。ピース二事件を継承する研究会を立ち上げるなど核廃絶に向けて活動していきたい」と語った。
(社会部・市川幹人)

核兵器廃絶と世界平和を訴える全国の高校生平和大使26人が16日、中満国連事務次長とリモートで意見交換会を行った。県内からは静岡高2年の今永さん(17)が参加し、核なき世界の実現に向けて議論を深めた。
中満氏は安全保障をイバー、宇宙領域の研
究も進み、「安全保障
問題が複雑かつ深刻化
している」と述べた。
今永さんは1954
年の米ビキニ核実験で
焼津港所属のマグロ漁
船「第五福竜丸」が被
ばくしたことに触れ、
核廃絶に向けた市民活
動の重要性について質
問。それに対し、中満
氏は対人地雷全面禁止
条約は市民運動がきつ
かんで実現したことを
紹介し、「市民が意見
を出す役割は大きい。
若い人を中心にネット
ワークを広げてほし
い」と応じた。

核なき世界実現へ議論

寄稿

核兵器禁止条約 1月発効に思う

核兵器の開発から使用までの一切を全面禁止する核兵器禁止条約が2020年10月24日、発効に必要な50の批准国・地域に達しました。これでこの条約は、2021年1月22日に発効することとなりました。高校生平和大使や高校生1万人署名活動を通して核兵器のない平和な世界の実現を訴えてきた者として感慨深いものがあります。高校生平和大使はこれまで、国連に2,001,235筆の署名を届けると同時に世界に向かって核兵器の廃絶を訴える活動をしてきました。この条約を作り上げるにあたって、ノルウェー・オスロ、メキシコ・ナジャリット、オーストリア・ウィーンの3回の国際会議が開かれてこの条約の基礎をつくってきました。その第2回目のメキシコ会議には、被爆2世の阪口博子さんと高校生平和大使の小柳雅樹さんが参加し、条約作りに貢献してきました。そして、核兵器のない世界に向けての大きな前進を勝ち取ることができました。もちろん、この条約にはアメリカ・ロシア・フランス・イギリス・中国の5大核保有国をはじめ、他の核保有国であるインド・パキスタン・イスラエル・北朝鮮も参加していません。また、日本をはじめとする、アメリカの『核の傘』に頼っている国々も参加していません。

50ヶ国の内訳も、南北アメリカ州（メキシコ、コスタリカ、ウルグアイ、キューバ、ベネジエラ、50番目に批准したホンジュラスなどで21ヶ国）、オセアニア州（ニュージーランド、フィジーなど10ヶ国）、アジア・中東（マレーシア、バングラデシュ、カザフスタン、タイ、ラオス、ベトナム、モルディブ、パレスチナなど8ヶ国と地域）、アフリカ州（南アフリカ、ナイジェリアなど6ヶ国）、欧州（バチカン、オーストリア、アイルランドなど5ヶ国）です。

この条約は、不参加国には条約順守の義務はありません。実効性が疑われる所以です。しかし、国際規範として、核兵器廃絶を核保有国に迫る強い圧力となることは間違いありません。

核兵器禁止条約は前文で『ヒバクシャの受け入れがたい苦しみに留意する』と明記されています。そして、核兵器の開発・実験・保有・使用などを全面的に禁止すると共に、使用の威嚇も禁じることで、核抑止力も否定している、まさに『核兵器を非人道的で違法と断じる初めての国際規範が生まれることとなります。』



いったい、日本政府は？

被爆75年、ようやくにしてできた条約です。被爆地長崎の市民・県民・被爆者が喜ぶのは当然です。条約が批准国50ヶ国・地域に達した翌日の25日、平和公園には田上富久長崎市長や被爆者、市民、そして、高校生が大勢集まり、批准を祝いました。また、翌日の26日は、市役所前で発効までのカウント・ダウンの点灯式がありました。高校生平和大使の4人も参加して、代表して大隈ゆうかさんが核兵器廃絶への決意を述べました。そのあと、カウント・ダウンの点灯式にのぞみ、市長や市議会議長、被爆者代表とともにスイッチを押しました。

しかし、条約に背を向けている日本政府の対応には疑問が残ります。『唯一の戦争被爆国』でありながら、核兵器廃絶についてのリーダーシップを発揮することができません。核保有国と非核保有国との橋渡しをおこなうと言い続けていますが、具体的なビジョンを示すこともなく、役割を果たしているとは言えません。せめて、2年に一度の締約国会議や発効5年後の再検討会議にオブザーバー参加するとか、締結国会議を被爆地・広島や長崎で開催するとか、何らかの意欲を見せてほしいものです。『唯一の戦争被爆国』と言うのさえ、恥ずかしい気がします。



高校生は負けずにこれからもがんばります

高校生平和大使はこれまで23年間、高校生1万人署名が始まって20年。雨の日も風の日も、冬の寒い日も灼熱の夏の日も、ひたすらがんばってきました。これまでに高校生平和大使は約300人、この活動に参加してきた高校生は全国で3000人にもおよびます。彼らのスローガンは「ビリョクだけどもリョクではない」というものです。今こそ、そのスローガンが正しかったことを示す時なのです。この期待に応えてこそ、未来の平和への希望が持てます。高校生は負けずにこれからもがんばりたいと思います。

高校生平和大使 核禁止条約批准国へエールの手紙



長崎市役所で記者会見し、核兵器禁止条約に批准や署名をした国・地域への手紙を手にする高校生平和大使＝8日午前

核兵器の開発や保有などを禁じる核兵器禁止条約が22日に発効するのを前に、核廃絶を国内外で訴える「高校生平和大使」らが8日、長崎市内で記者会見し、条約に批准や署名をした計122カ国・地域に激励の手紙を送ると発表した。

手紙は日本語と英語で表記。批准国には「今後の活動に期待するとエールを送り、署名国には批准に向けた迅速な行動を促す。平和大使の活動も紹介し、22日までに各国の大使館などに届くように発送する。」

条約は、昨年10月に批准数が発効に必要な50カ国・地域に達したが、米中など核保有国や、米国の「核の傘」に依存する日本は参加していない。平和大使らは条約への理解を深めてもらうため、国会議員や全国の知事、市区町村の首長にも順次手紙を届けるという。

第23代大使として、本県では太田堅さん（差石2年）と小沢美咲さん（一関12年）の2人が活動している。